

<要旨>

韓国におけるドラマ『パチンコ』の反応

- 視聴者たちの書き込みを中心に -

静岡大学非常勤講師 崔寶允

新型コロナウイルスによるパンデミックは、ドラマの視聴形態を大きく変化させた。ネットフリックスに代表される OTT(有料オンライン動画配信サービス)プラットフォームでドラマを視聴するのが主流になったのである。2021 年コロナ禍で世界的に人気を博したドラマ『イカゲーム』は、韓国のスタジオが制作したネットフリックスのオリジナル作品である。

『イカゲーム』の成功以降、OTT プラットフォームの競争が激化している中、後発者であるアップル TV が 2022 年 3 月 25 日に公開したドラマ『パチンコ(シーズン I、全 8 話)』は、注目に値する。アメリカの資本によって、在米コリアンたちが制作した「在日コリアン」をテーマにしたドラマなのである。

同名の原作は在米コリアンであるミンジン・リー氏が手掛けた長編小説で 2017 年に発表され、ニューヨークタイムズ・ベストセラー、全米図書賞最終候補作にも選ばれた話題作である。ドラマの公開に伴い、韓国では原作小説も再び注目を浴びるようになった。

1910 年代釜山・^{プサン}影島^{ヨンド}で生まれた主人公ソンジヤを中心に展開されるストーリーは、ソンジヤの孫であるソロモンが生きる 1980 年代の日本にいたるまで韓国と日本、アメリカを行き来しながら一族が経験する抑圧と挫折、克服と回復について物語っている。

このドラマに関して韓国のマスコミは、「制作、監督、主演すべて韓国系、初公開のパチンコに全世界から好評(朝鮮日報)」、「日本は気まずいパチンコの人気、アメリカのマスコミが韓国の日本植民地時代に関心(中央日報)」、「コリアンディアスポラに全世界が注目(ハンギョレ新聞)」など外信や海外の評論家たちの賛辞を報道している。

残念ながら韓国で制作されたドラマの中で在日コリアンを扱った作品は皆無である。韓国社会が目をそらしていた在日コリアンを扱ったドラマが世界的に注目を浴びていることについて、果たして韓国の視聴者たちはどのように考えているのか。

本発表は、激化する OTT プラットフォームの競争の下でコリアンディアスポラを描いたアップル TV の『パチンコ』を、韓国の視聴者たちがどのように捉えているか、視聴者たちの書き込みを中心に分析する。